日本鐵鋼協會記事

理事會（昭和14年度第3回）

日　時　昭和14年5月10日(水)午後5時15分開會7時30分閉會

出席者　理　事　松下　長久　吉川　晴十
監　事　井上禧之助　堤　正義
前會長　俵　國一　河村　驍　水谷　叔彦
常務委員　田中　清治　三島　德七

協議事項

1. 電氣製鋼研究會準備委員會の件（決定）
　開催期日　昭和14年5月25日(木)午後5時30分
2. 昭和14年度抄錄委員依屬の件（氏名別項）
3. 臨時講演會開催の件
　講演者及演題
　1. 滿支視察談
　　企畫院調査官　工學士　兒玉晋匡君
　2 鐵鋼生產力擴充の意義
　　日本製鐵株式會社技術部長
　　工學士　井村竹市君
日　時　昭和14年5月26日
4. 入退會者及び會員異動

會員數異動表（4月末日現在）

	名譽會員	維持會員	賛助會員	正會員	准會員	計
入會者			1	27	81	109
退會者					− 1	− 1
死亡者				− 1	− 1	− 2
轉格者				+ 10	− 10	
現在會員	14	50	21	1,468	1,605	3,158
前月と比較			+ 1	+ 36	+ 69	106

退會者氏名　准會員　太田　清

報告事項

1) 昭和14年3月分及4月分收支報告
2) 第22回講演大會に關する件

編輯委員會（昭和14年第3回）

日　時　昭和14年5月24日(水)午後5時開會同7時閉會

出席者　吉川理事　池田　正二　五百旗頭啓　田中　清治
山口　眞申　網谷　俊平　齋藤　彌平　三島　德七　志村　繁隆

協議事項

1. 鐵と鋼第25年第7號上掲論說原稿選定

選定原稿

1) 浮游選鑛法に依る鐵鑛の脫燐試驗　佐伯一郎　竹山和達
2) 歐洲に於ける熔鑛爐の酸性操業に就て　嘉村平八
3) 急速可鍛鑄鐵と其工業的應用　谷村　熙
4) 27S型デュラルミン鈑の機械的性質に及ぼす *Al* 地金の純度に就て　森永卓弌　溝口文作
5) 珪石煉瓦に就て　黑田泰造
6) 鐵鋼の生產配給　小川彌太郎

2. 鐵と鋼第25年第6號抄錄原稿決定
3. 鐵鋼要覽編纂の件

報告事項

1. 秋季大會の件
2. 鐵鋼要覽の件

耐火物特別座談會

日本鐵鋼協會，大日本窯業協會聯合開催

日　時　昭和14年4月21日(金)午後2時20分開會6時40分閉會
會　場　帝國鐵道協會三階大集會場
出席者　日本鐵鋼協會
河村　驍君　三島　德七君　鹽澤　正一君　井村　竹市君
石原　善雄君　山崎　章君　松山　寛慈君　吉川　晴十君
中田　義算君　山岡　武君　松原武三郎君　松下　長久君
大日本窯業協會
黑田　泰造君　青木　熊雄君　高田　安雄君　浮洲　武彥君
釆野善次郎君　加藤　孝治君　河合　幸三君　高良　淳君
近藤　清治君　笹井熊之助君　芝田　理八君　仲井　俊雄君
若林　滋君　伊藤　集愽君

議　事

本會前會長河村驍君日本鐵鋼協會を代表し一場の挨拶ありて黑田泰造君大日本窯業協會を代表し挨拶を述べ引續き座長席に着き珪石煉瓦及びシヤモット煉瓦に關し各員の意見交換が行はれ頗ろ有益なる効果を得たり.

第2回自動車用鐵鋼材研究會

日本鐵鋼協會，日本機械學會聯合開催

日　時　昭和14年5月4日(木)午後5時20分開會同9時30分閉會
場　所　帝國鐵道協會三階大集會場
出席者　自動車製造者側
後藤　久君　吉城　某君(日產)　松岡陽三君(豐田)
松田和之君(三菱)　島　治實君(東京)　海老原靖正君(日本內)
福田　公雄君　黑野忠雄君(日立)　岩田有共君(川崎)
松浦春吉君(新潟)　津田和男君(高速)
製鋼業者
玉置正一君(日特)　錦織清治君(大同)　石原米太郎君(特殊)
中島道文君(川崎)　江原浩介君(日鋼)　平世將一君(日鐵)
田口由三君(川崎)　坂口好雄君(川崎)　服部宗三君(東鋼材)
高尾善一郎君(神戶)　柳澤七郎君(住友)
使用者
坂田造兵中佐(海軍)　足立孝次郎君(鐵道)
寺澤市兵衛君(商工)　望月勳造君(市電)
機械學會
山下　興家君　山田良之助君　今井　武雄君　楠木　直道君
坂田三一郎君
鐵鋼協會
吉川　晴十君　三島　德七君　池田　正二君　五百旗頭啓君
齋藤　彌平君　今泉嘉一郎君　俵　國一君　河村　驍君
水谷　叔彥君　松下　長久君

議　事

吉川委員長より曩に幹事會に於て各社提出資料の蒐集整理せることに關し説明ありたる後提出資料中「連桿鋼」及び「曲軸鋼」に就き意見交換を行へり.

講演會（昭和14年第2回）

日　時　昭和14年5月26日(金)午後6時 30 分開會

場　所　帝國鐵道協會二階講堂

演題及び講演者

1) 滿支視察談

内閣企畫院調査官　工學士　兒玉晋匡君

2) 鐵鋼生産力擴充の意義

日本製鐵株式會社技術部長

工學士　井村竹市君

吉川理事司會者となり以上演了せり.

出席者 100 餘名.

昭和14年度　抄錄員委囑（5月10日理事會）

今村　幸喜君　茨木　正雄君　一色　貞文君　池上　卓一君
林　三樹勇君　本城　武君　豐島　清三君　桶谷　繁雄君
川崎　正之君　垣内富士雄君　武田　喜三君　谷口　三郎君
高瀨　孝夫君　根守　侃君　中島　省一君　名黒　和孝君
南波　伸尙君　八木貞之助君　矢島　忠和君　前田　元三君
前田　六郎君　藤井啓一郎君　福田　義民君　寺島元三郎君
雀部　高雄君　岸本　浩君　森棟　隆弘君　森永　卓弐君
鈴木千代藏君

臨時雇　工學院機械科第2期生　本橋　昌　鐵鋼要覽編輯助手に採用（4月24日）

新入會者氏名（自5月1日至5月31日）

居所又は宛名先	勤務先又は職業	會員別	入會者氏名	紹介者
室蘭市輪西町　輪西製鐵所	工學士	正會員	橋本武麿君	里村伸二
〃		〃	小野保太君	川口正名
				〃
石川縣能美郡苗代村字須天乙 54	小松製作所支配人	〃	工藤乙次郎君	瀧本宗吉
川口市壽町 80　五味鑄工所（川口 3,385）	所主	〃	五味矢八郎君	村松橋太郎 安達惠知郎
京都府乙訓郡大字上植野小字淨德 19（向日町 117）	日新電機會社專務取締役	〃	小島愼一君	村松橋太郎 谷口久
大阪府豐能郡庄內村字島江 32				村松橋太郎
大阪電氣鑄鋼會社三國工場（三國 371）	專務取締役	〃	荒川直治君	風間篤次郎
尼崎市昭和南通 6 ノ 155	東京ロール製作所　尼崎工場	〃	和泉孝太郎君	村松橋太郎 吉弘良夫
尼崎市昭和南通 6 ノ 255	〃	〃	小野貞義君	小森富作
				〃
尼崎市神田北通 6 ノ 184	〃	〃	伍堂喜一郎君	〃
				〃
奉天市鐵西區興工街三段九號 日滿鍛工株式會社（3）4694. 7292	取締役支配人	〃	小堀雄治君	飯尾昌克
赤坂區青山南町 6 ノ 135（青山 2,690）	理學博士　理學士　東京工業大學教授	〃	武井武君	村松橋太郎 村松橋太郎
大阪市住吉區墨江東 5 ノ 9 ノ 3	久保田鐵工所　恩加島工場	〃	吉田春喜君	風間篤次郎 田中勘七
八幡市大藏勝山町 2 丁目	理學士　黑崎窯業會社研究所	〃	高良義郎君	山本光男 高良淳
豐島區要町 2 ノ 16 ノ 1	正久丸物製造會社（大塚 3646. 3673）	〃	藤井清君	村松橋太郎 山田良之助 風間篤次郎
宇部市宇部鐵工所內		准會員	砂川鐵雄君	川村重信
富山市下新 120	日本曹達會社　富山製鋼所	〃	片岡修君	村松橋太郎
撫順市南大街東 3 番地ノ 63	滿鐵撫順炭鑛製鐵試驗場	〃	富永春一君	〃
茨城縣多賀町　日立製作所多賀工場	工學士　日立製作所多賀工場	〃	善田俊次君	田岡英夫
室蘭市輪西町　日鐵輪西製鐵所		〃	佐藤斌一君	里村伸二
室蘭市知利別町　日鐵社宅 5 ノ 93	日鐵輪西製鐵所	〃	山本德男君	〃
室蘭市輪西町　日鐵輪西製鐵所	工學士	〃	野田郁也君	川口正名
名古屋市港區龍宮町　大同製鋼會社築地工場研究部	理學士	〃	田中貢君	錦織清治
〃　檢査部		〃	菅三郎君	中島審一
尼崎市神田北通 7 ノ 185	尼崎製鋼所	〃	河霜龍一君	山田貞雄
名古屋市港區龍宮町　大同製鋼會社研究部	理學士	〃	吉井周雄君	錦織清治
大阪府三島郡味舌村正雀　大阪特殊製鋼會社　吹田工場研究室		〃	坂本茂男君	村松橋太郎
神戸市灘區青谷町 4 ノ 560 ノ 6　渡部宏方	神戸製鋼所　第二熔解工場	〃	矢野義二君	山田實
王子區袋町 1 ノ 1761	工學士　日本ピストンリング會社研究係	〃	瀧元君	佐藤知雄
川口市金山町 2 ノ 170　日本ピストンリング會社々宅		〃	金近滋君	〃

川口市元郷町　日本ピストンリング　川口工場		准會員	生澤　宏君	佐藤知雄
豐島區池袋 2 ノ 943　(大塚 1507)		〃	高尾　勤君	〃
旅順市旅順工大冶金學教室		〃	林　三樹男君	大日方一司
京都市左京區田中門前町 46 ノ 4 百萬遍アパート内	京大，工，冶，在學	〃	尾崎良平君	澤村　宏
市川市　菅野日本パイプ製造會社鋼管部		〃	大江禮三君	堀江吉光
王子區王子 3 ノ 4 (王子 2157)		〃	木村治郎君	〃
島根縣安來町新町　松本佐重方	日立製作所　安來工場製鋼課	〃	木村秋行君	高橋　隆
滿洲國撫順市松岡町　撫順炭礦製鐵試驗工場分析係		〃	石橋　榮君	村松橋太郎
川崎市京町 1 ノ 238	日本特殊鋼會社	〃	松本綱正君	石原善雄
横濱市鶴見區潮田本町 1 ノ 1460	日本鑄造會社製鋼部	〃	吉田健一君	中山正大
滿洲國安奉線南攻本溪湖煤鐵公司選鑛工場		〃	村上光德君	鈴本源次
名古屋市中川區富船町 3 ノ 1　渡邊鑄鋼所		〃	末廣榮久君	行方畝三郎
臺灣　臺北州基隆郡端芳街金瓜石鑛山工作課		〃	杉山德次郎君	村松橋太郎
牛込區馬場下町 6　家弓正之方	早大在學	〃	横山隆吉君	前田六郎
杉並區中通町 30　日笠方	〃	〃	小林一成君	〃
大森區入新井宿 4 ノ 1116	〃	〃	三谷達雄君	〃
浦和市外別所 1836　西川方	〃	〃	三井田逸朗君	〃
川越市宮下町 555	〃	〃	金子秀夫君	〃
牛込區市ケ谷富久町 16	〃	〃	高木貫一君	〃
豐島區西巢鴨町 2 ノ 2190　平田方	〃	〃	山口道夫君	〃
小石川區丸山町 21	〃	〃	谷　昌博君	〃
淀橋區戸塚町 1 ノ 470　青雲館	〃	〃	屋鋪　淳君	〃
淀橋區戸塚町 1 ノ 571　改明館	〃	〃	片山善行君	〃
板橋區練馬南町 2 ノ 3629	〃	〃	鈴木　誠君	〃
淀橋區戸塚町 3 ノ 376　小林方	〃	〃	橋　清三君	〃
川崎市小杉 358	日本鋼管會社川崎工場條鋼係	〃	田中恒久君	鈴木峯次郎
鞍山市北四條町鈴鹿寮	昭和製鋼所製鋼部　ロール掛	〃	岸川官一君	片岡光良
名古屋市熱田區花表町 3 ノ 18　大同製鋼會社熱田工場		〃	伊勢村富雄君	吉田正夫
大阪市北區堂島上 3 丁目 11　堀方	滿洲住友金屬會社	〃	勢藤源太君	室井嘉治馬
名古屋市南區豐門町 4 ノ 16　山田春吉方	大同製鋼會社熱田工場	〃	長谷川朝則君	林　達夫
大森區新井宿 4 ノ 984	東京鍛工所川崎工場	〃	三吉求馬君	池田清藏
名古屋市昭和區高田町 1 ノ 11　林方	工學士　大同製鋼熱田工場	〃	中村英男君	林　達夫
大連市霞町 73 ノ 1 ノ 1　滿鐵鐵道工場鍛冶職場		〃	甘粕達雄君	井上愛仁
大阪市外三島郡千里山 416	阪大在學	〃	大倉增次君	藤井　寛
横須賀市海軍工廠造機部鑄造工場	工學士	〃	藪内清三君	石川　薫
兵庫縣武庫郡甲子園中津濱帝大寄宿舍	阪大在學	〃	菅谷　博君	藤井　寛
奉天市大和區藤浪町 65	奉天造船所技術課分析室	〃	植松一三君	淺原隆三
呉市江原町 107　齋藤方	呉海軍工廠製鋼部	〃	雲雀隆二郎君	武林誠一
室蘭市御前水町社宅 657	日本製鋼所室蘭製作所改良課	〃	木村肩羊君	甲藤　新
兵庫縣武庫郡鳴尾村上田字入江 8　石原産業海運會社武庫川研究所(西宮3178)		〃	柳澤修一君	志村清次郎
長崎市飽ノ浦　三菱長崎造船所材料實驗場		〃	下・村俊彦君	金森政雄

轉格者（准會員より正會員に轉格）

田岡　英夫君　上田　美夫君　奥村　昌三君　柴田　仁作君
加藤　弘三君　太田　久夫君　關　　文男君　山上　秀雄君
野澤　一郁君

死亡者

正會員　武藤　金彌　君（五月二日）の訃音に接したるは洵に痛惜に堪えず玆に謹しんで弔意を表す.

日本鐵鋼協會野田文庫購入圖書

BOOKS

Authors.　　Titles.

American Society for Testing Materials.-
Symposium on Corrosion Testing Procedures. 1937

Allison, A.-
The Manufacture of Chilled Iron Rolls. 1929

Blair, A. A.-
The Chemical Analysis of Iron. 8th Ed. 1918

Bonsmann, F.-
Über die Eigenschaften von Siliziumstahl in Form von Stahlguss, (Mitteilungen aus dem Forschungs-Institut der Vereinigte Stahlwerke Aktiengesellschaft Dortmund. Bd. I. Lief. 6.) 1929

Campbell, W.-
A List of Alloys. 1930

Carpenter, H. & Robertson, J. M.-
Metals. Vol. I. 1939

Carpenter, H. & Robertson, J. M.-
Metals. Vol. II. 1939

DIN-Taschenbuch.-
1. Grundnormen. 1937

DIN-Taschenbuch.-
4. Werkstoffnormen. 1938

DIN-Taschenbuch.-
18. Wohnungsbau. 1931

Hentze, E.-
Sintern, Schmelzen und Verblassen sulfidischer Erze und Hüttenprodukte. 1929

Iron & Steel Institute.-
Second Report of the Steel Castings Research Committee. No. 15. 1936

Iron & Steel Institute.-
Supplement to Second Report of the Steel Castings Research Committee. No. 15a 1937

Jeffries, Z. & Archer, R. S.-
The Science of Metals. 1924

Kühle, A.-
Einfluss des Alterns und Blaubruchs auf die Dauerschlagprobe. (Mitteilungen aus dem Forschungs-Institut der Vereinigte Stahlwerke Aktigengesellschaft Dortmund. Bd. I. Lief. 4.) 1929

Marsh, J. S.-
The Alloys of Iron and Nickel. Vol. I. Special-Purpose Alloys. 1938

Puppe, J.-
Walzwerkswesen. Bd. III. 1939

PERIODICALS.

(R-1)　Revue de Metallurgie.
(Monthly) from February, 1939

日本鐵鋼協會關西支部第2回商議員會

日　時　昭和14年5月27日　午後6時より
場　所　京都帝國大學學友會館
出席者　井上　順三　高橋　清　多賀谷正義　室井嘉治馬
藤井　寛　小森　富作　荒木　宏　齋藤　大吉
澤村　宏　森崎　晟

議　事

1.　第2回例會の件
講演會及び見學會を次記の通り開催の豫定
日　時　7月8日土　場所　未定
1)　講演及び講師　電子顯微鏡　阪大助教授　菅田榮治君
2)　工場見學　未定

關西支部第1回見學並び講演會概要

昭和14年5月27日(土)京都に於て開催

午後1時京都帝國大學學友會館に集合，同1時30分より京大工學部中央實驗所見學，參加者約70名

見學概況　參加者多數の爲め2班に分れ第1班は澤村教授，第2班は山田教授に夫々案内せられて同實驗所内，X線實驗室，金屬材料試驗室，氣體力學實驗室，通風實驗室，眞空實驗室，照明實驗室乾燥實驗室，蒸溜實驗室，内燃機實驗室，熔接實驗室，高溫實驗室等を見學各所員より夫々專門の研究を詳細に亘り御説明を受け非常に有意義に午後3時終了せり.

講演會概況　午後3時30分より京都帝大學友會館に於て開催

演題及び講演者

北支及中支の製鐵工業に就て　　京都帝大教授　澤村　宏君

講演時間約1時30分に亘り別項大要の如き有益多趣の講演ありき傍聽者約100名，閉會午後5時.

關西支部第1回例會講演大要

（昭和14年5月27日）

北支及中支に於ける製鐵工業視察談

京都帝大教授　工學博士　澤村　宏

本年3月28日より5月8日に亘る42日間の見學旅行談を次の順序

に從て行た．(1)鐵鑛山の現狀　(2)製鐵工場の現狀

龍煙鑛床は烟筒山，龐家堡，辛窰，三叉口，麻峽口等の鑛床より成り此中最も良く知られたるは烟筒山鑛床である．此鑛床の現狀開發狀態に就て說明し更に同鑛石の塘沽碼頭に於ける積出し狀態に言及した．太平（馬鞍山）鑛床は多數鑛床の總稱で現在稼行中の鑛山は南山，大凹山，黃梅山及後鐘山である．此等諸鑛山の現在開發狀態及鑛石搬出徑路に就て說明した．大冶及象鼻山鑛山は現在貯鑛積出を行ふと共に採鑛準備中である．長江沿岸の其他の鑛床中鄂城，銅管山，桃冲及鳳凰山の諸鑛山も亦採鑛準備或は計畫中で此等の鑛石を我國に迎ふるのも餘り遠い將來のことではないであらう．

次に北支に於ける重要製鐵工場中大原に於ける舊西北實業公司工場及陽泉に於ける舊保晋公司工場は共に大倉鑛業會社が其作業管理を囑託せられ石景山製銑工業は興中公司が受託經營することとなり同熔鑛爐は昨年11月吹入られ現狀操業中である．原料に對し好條件に惠まれず成績の向上に非常な苦心が拂はれて居る．中支に於ける主要製鐵工場中幸に破壞されずに殘たものは上海浦東の和興鋼鐵廠でこれは現在中山鋼業所が受託經營して居る．漢冶萍公司の漢陽及石灰窰工場，漢口の六河溝鐵廠工場は何れも破壞され或は重要機械類は持ち去られ設備利用の見込が立たぬ樣である．

最後に北支及中支に於ける製鐵工業は將來天津，塘沽及上海を中心として發展すべき氣運にあることを述べ現在に於ては資金，資材手續等の關係から工場の新設は困難を伴ふも關係業者は常に現地に於ける製鐵事情の推移に留意して其研究を怠らず現地進出の機を逸しない樣に勉めることが邦家の爲にも必要なることを說いた．

日本鐵鋼協會室蘭地方會員第1回座談會報告

日本鐵鋼協會前會長俵國一博士及水谷叔彥博士の來蘭を機會に室蘭地方會員相集り，俵前會長を中心に座談會を開催せり．

時　日　昭和14年4月22日自午後6時至9時

場　所　室蘭市　ブラザー軒

出席者　83名（別紙出席會員名簿添付）

發起人代表甲藤新氏開會の辭を述べ，續いて水谷前會長挨拶を述べ，俵前會長を座長に．會誌，講演會，見學等に就き會員10數名より忌憚なき意見の開陳あり了つて午後9時散會せり．尙茲に特記すべきは本座談會開催を機とし30數名の新會員の申込をみたることにして，室蘭地方會員の約1/3に相當する多數の新會員を一擧に獲得したるは斯の如き座談會が地方會員に如何に熱心に待望されつゝあるかを證するものと云ふべし．

次に水谷前會長の挨拶の要旨並に會員の協會に對する希望及意見を種類別に列記すべし．

水谷前會長挨拶概要

御承知の樣に我等の協會も逐年盛大となり，會員は3,000を突破し，財產狀態の如きも特別財產を加ふるときは60餘萬圓を超える有樣で誠に御同慶の至りと存じます．

協會は會員あつて始めて存立致すものでありますから協會の發展の爲めには會員の增加が第1條件であります．先般總會の節にも會員を6,000名に達せしめたいとの話も出ましたが，會員增加の爲めには協會の事業が會員のためになる樣にすることが條件であります會員のためになる樣にするには協會は偏く會員の聲を聞くことが必要であり，會員は又その所見を協會の幹部に響かせることが必要と存じます．然るに今日までは此點に就き充分徹底する途が開けて居らぬ樣に存じます．唯會員に向て協會の發展に關する所見を求めたとて中々出て來ません．まして書いて出して貰ひたいなどと云ふことでは駄目です．或は又改つた席で意見を聽くことにしても中々出て來ません．それかと言て會員には意見がないのではなく，種々意見を抱持して居られます．改らざる席に於ては充分それを聞くことが出來ます．そこで私は豫て會員は隨時會食をして互に親睦を重ねその節食ひながら．飲みながら，協會に對する希望なり不平なりを遠慮なく談じ合ふことに致したならば，必ず協會に有益な會員の聲を聞くことが出來ると思て居りました．本夕は當地の多數の會員の御集りの折でありますから以上述べました主旨の座談會を致して見たいと存じ發起人に御相談致しましたところ，宜しからんとのことでありました．尙俵先生にも何ひましたところ同樣の御意見でありましたから，これから暫くの間煙草を喫ひながら，食ふものがあれば食べながら御互に協會の發展上必要なる所見を述べることに致したいと存じます．就きましては司會を俵博士に御願致すことにしたいと存じます．(拍手)

會員の會誌，講演會，工場見學等に關する希望一括

(1)．會誌に關するもの

1．外國雜誌の報告の飜譯を多く廣範圍に，且詳しく載せて頂き度い．

2．時代の潮流となつて居る問題，例へば白點水素說，結晶粒の問題の如きものに就き解說的なものを載せて欲しい．

3．中等學校を卒業した人，法科，經濟を出た人等で鐵鋼に關する事業に勤めて居る人を會員として包含するために，鐵鋼の基礎學に關する講義を連載して欲しい．

4．論文の活字をもう少し小さくしてはどうか．

(2)．講演會に關するもの

5．講演內容に應じて時間に長短をつけてはどうか．

6．デスカツシヨンの時間が短い．別室をそのために提供してはどうか．

7．講演大要を充實し，講演內容の少くとも50%以上を記述せしめ，速報の役目を兼ねしめる樣にしたい．字數の制限を500～1,000字とし，2,3行で片附けてゐるものは誠意なきものとして却下し內容がわかる程度に書き直させる樣に努力され度い．

(3)．專門部會に關するもの．

9．專門部會をなるべく回數を多く開催し，且活氣のある問題を捕えデーターを提出するだけでなく縱橫に意見を戰はす樣にしたい

10．現場技術者のみの座談會を開催し，理窟抜きで經驗を話し合ふ機會を作られ度い．

(4)．見學に關するもの

11．工場見學にもつと力を入れられたい．

(5)．名簿に關するもの

12．名簿に入會年次，年齡を記入されたい．

13．いろは順をアイウエオ順に改めて欲しい．

14．學識經驗から見て當然正員であるべき人（例へば服部賞受領者の如き）がいつまでも准員で殘てゐて，本部から何等變更の勸誘の來ない人が相當ある．斯樣な人は本座談會の委員の樣な人が推薦出來る途を開かれたい．（御氣付方より宜しく御勸誘ありたし）

(6)．其　他

15．室蘭支部或ひは北海道支部を可及的速に開設されたい．

16．地方でも時々講演會を開いて欲しい．

17．北海道でもつと屢々大會を開いて欲しい．

18．協會の幹部が地方へ來遊された時は隨時本座談會の如き會を催し地方會員の聲を協會本部に傳達し且反映せしめられたい．

以　上